

ペテロの手紙第一

まずはじめに、ペテロの手紙第一についてお話しします。

紀元64年7月19日、ローマ帝国皇帝ネロはローマの町を作りなおそうとしました。その驚くべき方法は、火を放ってすべてを初めからやり直すというものでした。この大火災は、ローマを壊滅状態にしました。ネロが放火したという人々の疑いをそらすため、ネロはクリスチャンに濡れ衣を着せました。ネロはクリスチャンをローマ帝国の敵とみなしていました。クリスチャンがキリスト以外のものを崇拜しないからです。

暴君ネロの迫害によって、使徒ペテロと使徒パウロは殉教します。

しかしペテロは、亡くなる前の紀元62-64年ごろ、ローマで軟禁生活を送りつつ、この手紙を書きました。迫害によって以後ますます苦しむだろう信徒に向けた手紙です。時代を超えて、この手紙の教えと励まし、慰めのことが、迫害に遭ったクリスチャンを大いに助けてきました。1節を読みましょう。

1 ペテロ 1:1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、

ペテロの手紙は、特定の教会にあてられたものではなく、ユダヤ人の信徒すべてにあてられたものです。ここに挙げられた地名は、現代のトルコにあたります。

この個所にある「選ばれた人々」とは、迫害がはじまって各地に離散したクリスチャンを指します。この人たちは、キリストにある真の信徒たちに並んで次のような人だとペテロは言います。

1 ペテロ 1:2 父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。

誰が救われるかをあらかじめ御存じなのは神のみです。

神は、救いについての基準を定めておられます。

選ばれて救われ、天国に行くのだと口で言っても、聖められて神に従って生きている証がなければ、その言葉に信用性はありません。

御霊の聖めとは、神によって私たちの人生を神に仕えるものとされたということです。また、神に仕えることは神への従順から始まり、従順によって明らかとなります。しかし、神に選ばれたすべての人々、すなわち私たち一人一人は、完全に聖められて従うことはできません。そこで、イエス・キリストの血潮による罪のきよめが私たちに与えられているのです。旧約聖書で、神への奉仕のために使われる用具に血をふりかけて聖別したように、私たちも神に用いられる器としてイエス・キリストの血潮によって、神に用いられるために聖別されます。

1 ペテロ 1:3-5 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。**4** また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これは

あなたがたのために、天にたくわえられているのです。**5** あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。

ペテロは神への感謝をあらわしています。イエス・キリストが死からよみがえられた結果、私たちが生きる希望を得ていることへの感謝です。主がよみがえられたので、私たちも自分自身の復活の日を待ち望むことができます。また、よみがえりの様子を、「朽ちることも汚れることもない」天にいることだと明言します。

私たちは信仰によって救われ、信仰をとおして、神の御力によって守られています。私たち自身の力ではなく、神の力なのです。

1ペテロ 1:6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならぬのですが、

ここで試練と書かれているのは、誘惑や罪の結果のことではありません。むしろ、人生の試練のことです。病気、失業、人間関係の悩み、信仰に対する迫害など、あらゆる試練です。けれども、そのような試練に遭遇しても、私たちクリスチャンは驚く必要はありません。イエスが前もって次のように教えてくださったからです。

ヨハネ 16:33b 「。。。あなたがたは、世にあっては患難があります。。。。

うれしいことに、イエスは警告の言葉の後に、励ましの言葉をくださっています。

ヨハネ 16:33c 。。。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

なぜ神はクリスチャンが悩み苦しんだり、迫害されたりするのをお許しになるのでしょうか。

1ペテロ 1:7 あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。

神の許される試練は、私たちが破滅させようとするものではありません。むしろ、私たちの真価を問うものです。ペテロは、クリスチャンの人生の試練を、金を精錬する火になぞらえました。火は、金から不純物を取り除きます。信者にとって、試練も同じような働きをします。簡単に言えば、勝利あるクリスチャン人生には試練が付き物だとペテロは言っています。

1ペテロ 1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、**ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。**

思い出してください。ペテロは迫害の中であって、さらに迫害がひどくなるであろうという状況で、この手紙を信徒たちに書きました。ペテロ自身もまもなく十字架にかけられます。けれども、そのような試練に遭うことで、信徒たちの愛と信仰が深まることをペテロは知っていました。

シャデラク、メシャク、アベデネゴにとっては、まさにそのとおりでした。ダニエル書3章の話を覚えている方もおられるでしょう。この3人は、通常よりも7倍も熱い燃え盛る火の炉に投げ込まれました。文字通り、火の中を通る経験をしたのです。けれども、「4人目の人」、つまり神の御子が彼らとともに火の中におられたので、それに耐えることができました。そして、炉から出てくるように命じられるまで、出ようとはしませんでした。

私たちも、「主よ、あなたをもっとはっきり知るために必要なのであれば、私を試練の火の中におらせてください」と言える信仰の状態にいつか到達するのかもしれませんが。なぜなら、人生の試練の火の中でこそ、イエスが私たちとともにおられることがよくわかるからです。こうして、私たちは「**ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどる**」ことができるのです。

1ペテロ 1:9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。

私たちのたましいの救いは、信仰と希望の結果なのです。

1ペテロ 1:10-11 この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。**11** 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。

預言者たちは、将来のいつかの時点で無償で与えられる恵みの救い、というものについて知っていました。

イエスが来られる前は、救いが何であるかよりも、救いがいつ来るのかをおもに読み解こうとしました。

キリストがいつ苦しまれるのか、それに続く栄光はいつ来るのかを知りたかったのです。

1ペテロ 1:12 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。

旧約聖書の預言者たちは、メシヤに関するさまざまな預言を理解してはいませんでした。聖霊によって、人をとおして福音が語られるということ、また、聖霊によって聖書を理解することを私たちは覚えておかなければなりません。

1コリント 2:12-14 ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。**13** この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。**14** 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。

1ペテロ 1:13 ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現れのと きあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

聖書の時代の人々が、長い着物の帯を引き締めるのは、機敏に動くためです。同様に私たちも、心を引き締めて神のみことばに思いを集中させ、つまずかないように注意する必要があります。**14**節を見てください。

1ペテロ 1:14 従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、

以前の欲望がどのようなものをもたらしたか、覚えておくべきです。むなしさ、痛み、後悔、恥、・・・そのようなものから、充実感や平安は得られません。

1 ペテロ 1:15-16 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない」と書いてあるからです。

聖であるとは、この世の罪とは縁を切ったということです。使徒パウロはこのように言いました。

ローマ 12:1-2 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

この世の嘘や、から約束と調子を合わせず、神のみことばによって心を一新し、自分を変えなさい。

1 ペテロ 1:17-19 また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなし生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

ペテロはここで、キリストとの個人的なつながりと宗教的な行いの違いについて説明をはじめます。

神の救いの方法は、この世の方法を使って救いを得ようとする人間の試みとは対照的です。ペテロは、キリストが最後のいけにえの子羊であると述べます。私たちの罪の代価として私たちの代わりにささげられたいけにえです。

1 ペテロ 1:20-21 キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現れてくださいました。21 あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。

イエス・キリストの死は、思いがけない事故ではありません。すべては、神が前もって計画してくださったことです。それは、神が永遠に人を愛してくださることを何よりもあらわしています。

1 ヨハネ 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

キリストは、神に従わない者のために死なれました。つまり、私たちのために死んでくださったのです。

ローマ 5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

1ペテロ 1:22-23 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。**23** あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることのない、神のことばによるのです。

人は、イエス・キリストを信じることによって「新しく生まれ」、または、救われます。私たちが信じる時、人は変えられ、霊的に「新しく生まれる」のです。

私たちは新生を体験しました。ですから、神の家族に属し、キリストにあってともに兄弟姉妹なのです。

そういうわけで、「新生」は新約聖書で使われた言葉であり、今日でも世界中で使われている言葉です。これは、主イエス・キリストの恵み、天におられる父なる神の愛、そして内住の聖霊の変わりによってひとつとなった家族をあらわします。周りを見渡してください。これほど多くの国籍の人たちが毎週集まる場所は他にたくさんないでしょう。お互いのことをよく知っているわけでもなく、代金をもらっているわけでもないのに、笑顔で挨拶を交わし、互いに思いやりを示します。私たちはなぜそうするのでしょうか。

それは、クリスチャンだからです。イエス・キリストの弟子、神のみことばの生徒だからです。私たちクリスチャンは、これらの基準によって、この世と一線を画すのです。私たちは、兄弟姉妹のように、家族のように愛し合うよう召されています。イエスは言われました。

ヨハネ 13:34-35 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。**互いに愛し合いなさい**。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも**互いに愛し合いなさい**。**35** もし**互いの間に愛がある**なら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

救いは感情や体験だけではありません。それは、個人的な関係であり、変化をともしません。従うこと、互いに愛し合うこと・・・これは新生した真のクリスチャンである証です。

1ペテロ 1:24 「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

「人はみな草のようで」

年を取って毛が薄くなってくると、こういう発想が理解しやすくなります

1ペテロ 1:25 しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。

人は変化を好みません。変化は人を不安にさせます。しかし、変化の時期だからこそ、この世のすべてのものは不確かであり、はかないものだとことを実感しやすいのです。一方、どのような変化が起こったとしても、主のみことば、イエス・キリストの福音は変わりません。また、決してすたれません。

祈りましょう。